【新入生のみなさんへ】
通信教育課程の魅力 ………………………………東洋大学学長 松 尾 友 矩… 2
通信教育部へ入学された皆さんへ ……………通信教育部長 名 雪 健 二… 4

【随 想】
「機」を見る ................................................................. 北 村 嘉 行… 6

【オアシス】
「信玄公旗掛松」事件——現地を歩く —— ………………山 下 りえ子… 8

【学習室】
日本語の世界を探索する（三）
——日本語の男女差を考える—— ……………………… 三 宅 和 子… 11
フランス語圏文学文化と日本
リポートへの取り組みのヒント ................................. 朝比奈 美知子… 16
判例を読もう ............................................................. 木 村 實… 20
そごう事件にみる法的諸問題（一） ........................... 三 谷 忠 之… 23

【学 灯】
村上春樹論ノート（承前）——「風の歌を聴け」 ........................... 石 田 仁 志… 29
承認論と台湾
——日本国にとっての台湾の法的地位—— ...................... 斎 藤 洋… 40

学友会のページ .................................................................. 56

掲示板 .......................................................................... 106

【表紙説明】 千葉県千葉市中央公園・大田部足人歌碑 ........................ 露木 悟義
「女男のような言葉を使」、「男と女の差がなくてできない」といった議論をたびたび耳にする。現代日本語の男女差はどれほどあるのだろうか。言語研究者ならずとも渋いところのある自然な疑問である。今回は、その疑問に答えようとする視点からチャレンジした。

3名の学生の研究を紹介しながら、日本語の男女差について考えた。また、それを通して、現代語の研究は日々の言語行動の観察から材料を見出すことができることを示し、私たちがいま現在使っている言葉を再検討する機会を伝えたい。

「日本語の男女差」

言葉の男女差の研究は世界的には、言語とジェンダー研究と

日本語は英語のように基本的には男女差がほとんどない言語である。それに必要な、アメリカンディア話者のように、英語は女性差が著しい言葉もある。もちろん、世界の言葉がこれらの言葉を明確に分けるわけではない。しかし、コンピューターやソーシャルメディアが見られる。

日本語は、よく知られている言語の中では比較的男女差が大き

いと言語とされるが、実際にには、男性と女性が厳密に言葉を使い分けているというわけではない。相対的にいて男性に使用される
1. 丁寧である。「お」をつける。「おみかしに、「きつい」が多い。
2. 敬語の使用が多。
3. 女性特有の文末詞。「～たね・～の～かしら・～てよ」などが多い。
4. 女性特有の敬語。「～てら・～の～てら」が多く。
5. 女性特有の強調。「ては～ごっこ・～なやか」が多い。
6. 女性特有の言葉。「～だる」などが多い。

日本の女性口語について。
国語学者の菊沢季生が、「婦人の言葉の特徴に言及している。」
彼の言葉は最も新らしいといわれている。女言葉は「女論理」、女言語が
丁寧で、丁寧な口調が人間の意識を裏返している。

丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を表している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。

丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、といったイメージが人々の意識を裏返している。
丁寧でさりげない、いった
異なるレベルの男女差

ここでは学生A、B、Cが行なった三つの観点からの調査を紹介する。

（1）学生A

オネオ言葉に関する「女らしさ」

学生Aは、Vドラマや映画で男女差がどのように表現されているか、そして「男言葉」と「女言葉」はどちらも男の間でどのように受け取られるかを調査した。男性の言葉を使っている男性の「女言葉」が使われることが増えていた。その結果、オネオ言葉の使用頻度は、男女差が無く、男女差が見られるという結果であった。男性は、オネオ言葉を使っている場合、女性は「言葉」を使っている場合、それぞれの言葉の使用頻度は変わらないことが示された。

（2）学生B

男性の会話における性差

学生Bは、若い男女の言葉の性差を調査した。特に、男の言葉の使用頻度が高かったが、これは、男の会話でなく、他の場合の言葉の使用頻度が下がっていることが示唆される。一方で、男性の言葉の使用頻度は、男性の会話で高く、男女差が見られない結果が出た。

（3）学生C

男性の会話における性差

学生Cは、同じ性別の会話における性差を調査した。特に、男性の会話における言葉の使用頻度が高く、男女差が見られない結果が出た。